

日本イエナプラン教育協会



ニュースレター Vol.8 2011. 6月号

発行元：日本イエナプラン教育協会

編集：田村 悠子

住所：〒155-0033

東京都世田谷区代田6-3-22-202

TEL：070-5559-0361 FAX：03-3466-3439

HP：<http://www.japanjenaplan.org/>

mail：Info@japanjenaplan.org

6月が間もなく終わります。梅雨はまだ明けませんが、夏はもうすぐそこまで来ていますね。今年の夏は節電が大きく叫ばれ、様々な課題を抱えている日本ですが、我々1人1人が力を合わせて知恵を出し合い、行動に移すことで乗り越えていけると信じています。8月には、リヒテルズ直子氏のワークショップの開催を予定しております。こんな時だからこそ、皆さんと教育を盛り上げ【元気な日本】を創っていきたいです！

第8回

テーマ学習のテーマは、できるだけ「狭く」「単純」で「具体的」なものに

協会代表 リヒテルズ直子

フレークさんは、ヒュバートさんやリーンさんと一緒に、2007年に日本に来たことがある、オランダ・イエナプラン教育の専門家です。オランダ・イエナプラン教育協会の中では、ケース・ポットさんやアド・ブースさんなどの重鎮研究者の後継者とも言える、イエナプラン教育研究の第一人者です。私にとっても大切な友人の一人です。今日は、そのフレークさんが、先日話してくれたエピソードを紹介します。

あるイエナプラン校で教えているマレイケ先生が、フレークさんに相談をしました。マレイケ先生が、グループ1～2(4, 5歳児)の担任(グループリーダー)として務めているイエナプラン校では、次のワールドオリエンテーションのテーマは「学校の周りの環境」というテーマだとか、、、マレイケ先生は、自分が担当している4, 5歳の子どもたちには、どんな勉強をさせようか、と頭を抱えて悩んでいました。

『学校の周りには何がある？』とすればいいかな

そういつてマレイケ先生はフレークさんに相談しました。するとフレークさん曰く、

「そりゃあ、ちょっとテーマが広すぎるよ。ぼんやりしていて何でもありになってしまうよ。もっと小さなテーマにした方がいい。」

マレイケ先生は、フレークさんが言っている意味がよくわからず、小さなテーマにしてしまうことについてむしろ心配の様子です。小さいテーマにしたら、子どもたちとの話題が無くなってしまわないか、興味を持たない子が学習に参加しないのではないか、どの子も参加できるようにするには、テーマは少し広目にして、ぼんやりさせておいた方がいいのではないかと。

でも、頑固なフレークさんはなかなか首を縦に振りません。

「わかったわ、それじゃあ、『校舎』ならいい？」

『校舎』か、、、それもなんだかまだ広すぎてぼんやりしているなあ。なにがいいかなあ、、、」

こうして、フレークさんも一緒になって、二人で色々頭を捻りました。そうして、その結果、『ドア』というテーマにしよう、ということになりました。

「うん、これなら、うまくいだろう」

とフレークさんも満足そうです。

こうして始まった「ドア」というテーマの幼稚園児のテーマ学習。



Photo: リヒテルズ直子

早速、子どもたちは、学校中の「ドア」を数えて回ることから始めました。

なんと、小さな学校の中に、ドアは33個も見つかりました。何しろまだ4歳と5歳の子どもたちです。両手の指をみんな使っても数えきれないほどの数です。それに、子どもたちは、学校の中で今まで気づかなかった「秘密のドア」まで見つけました！いつも閉まっていたその向こうに何があるのか興味津々のドアです。

次に、子どもたちは、ドアにはどんな種類があるのか、と考え始めました。開き戸、回転ドア、シャッター、スライド式のドア、いろいろな種類があります。種類ごとにまた数を数えてみます。「分類」ということを体験的に学んでいるのです。

マレイケ先生は、子どもたちに、家に帰って、自分の家にはいくつドアがあるかを探してきてごらん、と言いました。学校にあるドアとは違うドアが色々見つかりました。玄関やキッチンのドア、ガレージのドアなどです。なんだか、子どもたちのお父さんやお母さんまで、ドア探しに夢中になってきました。

さて、ドアを数えたり、分類したり、という作業が終わると、今度は、ドアが開く仕組みや鍵の種類に、子どもたちの関心が向いていきました。4歳や5歳の子どもたちですよ。こんなに小さくても、好奇心があれば、難しい仕組みや技術でも理解できるのです！！

子どもたちは、今度は、一人一人家に帰って玄関のドアの前で写真を取り、学校に持ってきて集めてみました。一人一人みんなそれぞれの家のドアに立っている写真が集まると、とても沢山の違うドアがあることに気づきます。共通点や異なる点を学ぶ絶好の機会です。色、形、材質などについてワイワイガヤガヤ話していました。

そんなふうに、「ドア」という、小さな単純なテーマで、子どもたちは、何週間もの間、好奇心が尽きることなく、次々に勉強が進んでいったのです。

どうでしょう、この学習を『校舎』だとか『学校の周り』などというテーマにしていたら、、、？ 子どもたちは、こんなに興奮して好奇心に満ちた学習をすることが出来ていたでしょうか。

しかも、この学習を、子どもたちは、先生に「教えられて」ではなく、自分たちでどんどん進めていったのです。先生がやったのは、時々、子どもたちの関心を何かに仕向けていただけでした。

フレークさんは、こんな話も教えてくれました。

グループ6～8(小学4～6年生)の子どもたちの授業で、「住宅金融」や「銀行」の仕組みについて学ぶことにしました。

「おうちを買ったり建てたりするときには銀行の住宅融資でお金を借りる」ということ、「銀行はお金を集めて、投資したり融資したりするものである」ことを学びました。

すると、子どもたちの中から、住宅融資からお金を借りているかどうか、学校の大人たちに聞いてみよう、というアイデアが生まれました。

子どもたちは、学校中の先生にインタビューして回ります。今住んでいる家を銀行の融資で買ったのかどうか(オランダ人の殆どはそうしています)、もしもそうなら、何年間何%の利子を払うのかを聞いてまわりました。いつもフレンドリーな先生たちですが、子どもたちのこの質問にはさすがに「ノー・アンサー」といった人もいました。答えたくなければもちろん答えなくて良いという権利を知る機会になりますね。でも、大抵の先生たちが協力してくれました。子どもたちは、家に帰って、自分のお父さんやお母さんにも、今住んでいる家を手に入れるために銀行から融資を受けたかどうか聞きました。



Photo: リヒテルズ直子



Photo: リヒテルズ直子

子どもの時から、お金のことなど考えさせたくない。そう思う方もいらっしゃるかもしれませんが、でも、大人が『汚い』と考えているほどに子どもたちはお金に汚くはありません。純粋に、大人たちが、どうやって家を手に入れたり、そのためのお金を用意したりしているのかを知るの、オトナになるための一つの大切な勉強の一つです。

こうやって、とても沢山のデータを手に入れた子どもたちは、今度はそれをもとに、利子の高さの違いで統計を出し、グラフに表すことなどもしてみました。ホンモノを使った『数学』の勉強です。こういう時には、本気で計算しますし、理にかなった答えでなければ納得しませんから、自然と正確な計算をしようと努力します。

こんな風にして、子どもたちは同時に、銀行(金融機関)というものが、どういうふうにして企業として成り立っているのかを学ぶことも出来ました。預金者からお金を借り、そのお金をどのようにして増やしているのか、どんなリスクがあるのか、なども、とてもリアルに身近なものとして学んだのです。

やれ、新聞を読み、ニュースを見ている、というよりも、こういう学習をすることで、子どもたちの好奇心は、自然と時事や経済動向へと向かっていくのです。わずか11~12歳の小学生ですら。

フレークさんは、こう言います。

テーマ学習をやるならば、テーマをぼんやりと抽象的な課題にして拵げてはダメだ。できるだけ、身近な、できるだけ単純なテーマにした方がいい。そうすれば、子どもたちは、自分たちで議論をして、どんどん深く掘り下げていく、と。そして、そうやって、刺激をされた子どもたちの好奇心は留まることのないくらいにエキサイティングなものになるのだ、と。

だから、子どもたちと学ぶときには、子どもたちの経験世界の中にある、なんでもないものから選んでください。それが、大人たちには想像もできないような子どもたちの好奇心につながり、予想もしていなかった深い学び、広い学びになるのです。それは、理科と社会なんていうようなものではなく、もっと広く、ものを数えたり、描いたり、分類したり、比べたり、理屈を考えてみたり、、、という、ありとあらゆる科目の壁を超えたスキルを身につけることになるのです。

子どもは好奇心の塊です。子どもは、学習するということをインプットされて生まれてきた、まるで、学習マシンのように精巧な天からの授かりものなのです！！



Photo: リヒテルズ直子



Photo: リヒテルズ直子

イエナニュース

～リヒテルズ直子氏のワークショップ決定！！～

皆さま、お待たせ致しました！この8月、リヒテルズ直子氏を講師にお迎えし、都内でワークショップを開催する運びとなりました。

今回のワークショップは、リズムカルな流れのある【オランダイエナプラン校の1日】を体感できる、とても贅沢なものとなっております。日程や場所は以下の通りです。さらに詳細が決まりましたら、協会のMLで皆さまにお伝え致します。

【日時】8月4日(木)10時～16時半

【場所】あうるすぽっと【豊島区立舞台芸術交流センター】

<http://www.owlspot.jp/access/index.html>

シリーズ ～サークル対話～



【シリーズ～サークル対話～】の第4回目を皆さまにお届け致します。どうぞ、ご自分の実践などと照らし合わせて、お読みください。日本でサークル対話を広め、盛り上げていくヒントがいっぱいです！

サークル対話の進め方

リヒテルズ直子

この手引きは、サークル対話を進めるときの注意事項として、主に下記の参考資料をもとに記述したものです。筆者が日本の状況に照らして必要に応じて補足的な説明を施しています。ニュースレターでは4回に分けて、サークル対話についてシリーズをお届けします。

5回目(7月)号では、皆さんそれぞれの実践や経験(成功例や失敗談)をご紹介ください。

- 1回目(3月):サークル対話をなぜするのか
- 2回目(4月):サークル対話にはどんなものがあるか
- 3回目(5月):サークル対話をうまく進めるための知恵と工夫
- 4回目(6月):サークル対話がうまくいかないのはどんな時?
- 5回目(7月):会員参加:サークル対話をやってみたら、、、?

参考資料(1～4回):

K.Both, "Jenaplan, Jenaplanonderwijs op weg naar de 21e eeuw", Nederlandse Jenaplan vereniging(NJPV), 1(ケース・ポット「イエナプラン、21世紀に向かうイエナプラン教育」オランダイエナプラン教育協会(NJPV))

Ad W.Boes, "Gesprekken in de kring", Christelijk pedagogisch studiecentrum(CPS), ISBN 9065083049, pp.17-36

(アド・W・ブース「サークルの中での対話」キリスト教教育研究センター)

シリーズ第4回

【サークル対話がうまくいかない場合】

1. 参加者相互の間に、普段からよい人間関係がない。

- 子どもたちは互いに、互いの行為や性格などに興味関心を持って関わっているか。
- 子どもたちは互いに、仲間として尊重し合って行動しているか。
- グループ・リーダー(担任教員)は、子どもたちから、一個の人間として信頼され受け入れられているか。
- グループ・リーダー(担任教員)は、グループのすべての子どもたちを一人残らず受け入れているか。

2. グループ・リーダー(担任)が、権威的・威嚇的な言葉遣いをしている。

サークル対話では(グループの日常生活でも)権威的な言葉は使われべきではない。

【理由】:その言葉が使われるものの考えや経験の自由な交換を妨げる。

～良くない言葉遣いの例:言い返すことが不可能なような言葉遣い～

「馬鹿だな、お前は」

「頭が悪いな」

「ポーっとするな」

「ほら、そこのお前」

「今度こそちゃんと注意して聞くんですよ、OOさん」

※子どもの声より大きな声、怒鳴り声もふさわしくない。

3. 子ども同士互いの話に耳を傾けていない

【理由】

- グループ・リーダー(担任教員)が、子どもが発言するたびに、それをまとめたり、言葉を繰り返したりすると、参加している子どもは、発言している子どもの話を聞かず、先生の言葉だけを聞くようになる。
- 子どもの間に、ライバル意識・競争心がある。
- 声が小さかったり、周囲の環境のために、言葉がよく聞き取れない。(グループリーダーはすぐに注意をしたり、問題を解決すること。)
- 子どもたちがグループ・リーダーの方だけを向いている。(グループリーダーがサークルの中心になっている。サークルの作り方を考え、グループリーダーが、子どもたちと同じように、参加者の一人として加わる形を配慮する)

4. 同じ子どもばかりが発言する

必ずしも悪いとばかりは言い切れない。でも以下の場合には注意。

- 話をしている子が他の子どもの発言の妨害になっている。

【対策】

「今日は、前よりもたくさんの方が対話に参加できるようにしましょう。前に話す機会がなかった人の中で、話したい人がいたら、優先的に発言できるようにします。」

- 話し合いの内容のレベルが一部の子どもには高すぎる。

【対策】

「何かわからないことがあったら、話の途中でも、すぐに手を挙げて聞きましょうね。」

5. 子どもたちがサークル対話に飽きて、参加意欲をなくしている

「さあ、サークルになって話し合うよ」と言った時に、子どもたちからネガティブな反応がある。

【理由】

- サークルになって座る時間が長すぎる。
- サークルで話題にされる内容が面白くない。準備を周到にせずに、毎日の習慣としてサークルを繰り返すとつまらなくなる。
- 読みのサークルで順番に回して読ませる、報告サークルにいろいろな形式を取り入れないで漫然と発表させる、など。



6. サークル対話がうまくいっているかを確認する(フィードバックの方法)

- 同僚に来てもらい、自分がグループ・リーダーとしての役割をうまく果たしているかフィードバックしてもらう。(5の基準に照らしながら)
- 自分の姿・グループのサークル対話の様子をビデオに録画して見直してみる。
- 実習生に見てもらう。(実習生にとっても良い訓練になる。)
- 高学年の子どもの場合には、サークル対話に参加している子どもたち自身に、サークル対話の進行を評価させてみる。(生徒自身のサークル対話への参加意識を高めるのに役立つ。)



【報告】第2回イエナカフェin福岡 2011.5.29

～リヒテルズ直子さんを囲んで～

5月29日(日)に、九州大学百年講堂(福岡市)で第2回イエナカフェを開催しました。今回はリヒテルズさんの来日に合わせての開催でしたので、リヒテルズさんとの対話やワークショップを中心にしたもの、というスタンスでの企画でした。



リヒテルズさんを中心にサークル対話

午後2時から5時までの3時間。定員は20人程度。会費は一般2500円、学生1500円ということで参加者を募集しました。結果、当日台風接近という悪天候にもかかわらず、22人の方(学生8人、教員4人、一般10人)が参加されました。口コミでの参加者が半数、あとの半数はツイッターやメールで情報を得てとのことでした。(この情報の発信は、イエナプラン協会の若い事務局の方々の力添え。感謝です。)

日頃からイエナプランや教育に関心のある方々が主体的に集まってきて下さっていて、会の雰囲気は、はじめからうち解けた積極的な

ものになりました。また、若い方々の参加が多かったため、どこか華やいだ雰囲気も。福岡市を中心とした学生のネットワークづくりが進んでいて、そのリーダーたちが参加してくれていたそうです。若いパワーに出会うと元気が出ます。

さて、会の内容です。「たっぷり3時間」と銘打った会でしたが、「短い3時間」となりました。おそらく参加者は、1分の隙間もなかったと思います。皆さんきっとお疲れだったでしょう。でも最後まで活気あふれる会でした。プログラムは以下のようです。

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. サークル対話 | オリエンテーション |
| 2. プレゼン① | 個別学習の基礎 |
| 3. プレゼン② | イエナプランの4つの要素と6つの特性 |
| ※グループをつくる | |
| 4. グループ学習① | マインドマップ(1) |
| 5. 遊び① | 協働ゲーム(1) |
| 6. プレゼン③ | ワールドオリエンテーションとリーダーの役割 |
| 7. グループ学習② | 小さな実験 |
| 8. グループ学習③ | マインドマップ(2) |
| 9. サークル対話 | 成果の発表
ふりかえり
まとめ |

もうお分かりのように、イエナプランの学校で行われている、4つの活動をリズムカルに組み合わせるスタイルを、濃縮したものです。リヒテルズさんは、3時間で少しでも多くの話題・活動を取り入れようと、「こんにちは、リヒテルズです。

ではさっそく・・・」と、全員がそろった直後には内容に入っていました。

サークルになってのオリエンテーションに続き、簡単に自己紹介しながらのアイスブレイキング。次にマルチプルインテリジェンスの講話、イェナプランの4つの要素と6つの特性の講話です。

この二つの講話が30分で収まるというのは、イェナプランを知り尽くしているリヒテルズさんならではの技です。社会性を育てることの大切さ。教えることが子どもの興味をそぎ落としてしまっていないか。自分の頭で考えることを大切に、共感を味わい、幸せだと感じることで、子どもは働く人となり、経済が発展し社会が安定する。等々イェナプランのエキスがちりばめられた講話でした。

ここで、マルチプルインテリジェンスによるグループ分けをしました。グループには、「日本の学校をこんな風にしたい」というテーマが出され、マインドマップ作りをしました。



グループでのマインドマップ作り

5人ずつのグループで、いろんな立場からいろんな考えを出し合い、わいわい話していると、

「はい、じゃあ頭を冷やしましょう」

と遊びのサークルの始まりです。必死になって頭を使った時は、リラックスが肝心。これもイェナプラン方式です。10分ほど、ふたつの小さな遊びを入れて、次の講話に移りました。この辺でお茶でも入れたかったところですが(実は、暖かいお茶とクッキーを準備していました。)時間がなく・・・以後、疲れた人は各自でどうぞ、とお勧めして適当に飲んでもらいました。

3番目の講話は、ワールドオリエンテーションについてでした。

イェナプラン校で行われているワールドオリエンテーションの位置づけや内容、6つのステップについて、25分程でお話していただきました。

そして、さっそく実験の体験を。各グループに渡されたものは、小さなカップと水とスポイト。15分くらいの簡単な実験でしたが、とても楽しい、発見のあるものでした。実験の後は、気づいたことを発表し合うサークル対話です。その内容、結果は、この報告ではシークレットとしますね。実験はわくわく感が一番だと思うので、皆さんがどこかでこの実験と出会われたときにがっかりしないように。

しかし、その時の参加者の方々のわくわくぶりは、下の写真のようです。ご覧下さい。



実験風景。何を一生懸命見つめている？

さて、残り時間が1時間を切り、グループでのマインドマップに戻りました。今度は、先に書いた模造紙の「こんな学校にしたい」のアイデアの周囲に、①そのために私たちにできること。②学校や地域にやって欲しいこと。③まず最初のステップは？ という角度からグループで考えを出していきました。25分くらいの時間でしたが、ここでも、それぞれの立場でいろいろな考えが出され、リヒテルズさんの

「そろそろ発表をしてもらいましょうか」

の合図がなかなか聞き入れられないほど、各グループとも議論が白熱していました。なんとか収まり、模造紙にいっぱい書かれた討議内容が、各グループから発表されました。その一部を紹介します。ほんの一部です。

【Aグループ】

学校の教室空間から変えていきたい。大人がもっと学びを楽しむ社会にしたい。
→イェナカフェの参加者を増やそう！

【Bグループ】

先生の仕事をもっとゆとりのあるものになっ
たい。少人数にするなど。

【Cグループ】

生徒と生徒、生徒と先生、先生と親、の
関係性をもっと深めたい。教師は授業
を通してそれができる強みがある。
ゲームとかも取り入れては？

【Dグループ】

子どもの居場所、笑顔、が大切にされる
ように。親が忙しい。もっと家庭で対
話ができればいい。

最後に、またサークルになり、ふり返
りをしました。私が聞き取った範囲で
すが、次のような感想がだされました。

男性 1

いろんなことをもっともっとフラット
に考えるべきだな、そしてそれは経
験によって身につくんだと思った。
無理ではなく、ベストを尽くそう
と思った。

女性 1

子どもの話をしてきたけれど、大人
に対話が足りないと思った。今日
のような集まりを大人の中に広げ
ることが大事。

女性 2

自分自身学校が嫌いで、子どもに
行かせたい場所ではなかった。小
学校にも反映して欲しいが、まず
は大人社会にこのような関係性を
持つことが必要。

学生 1

自分が受けてきた授業を振り返った。
発表することが良いことで、発表
の回数を競ったりしていたが、お
互いの話を聞くことの方が大切
なではと思った。

学生 2

教育実習に行くが、どういう考え
方で、子どもにとって良いことは？
と考えていくことが大切と思った。

学生 3

高校2年生の時に「オランダの教育」
を読み、日本の教育が100%では
ないんだと衝撃を受けた。オランダ
の選択できるところが良い。日本
もいろいろな方法が評価される社
会になればいい。

同じ体験をした者が、サークルの
状態で自分の想いを語り、みんな
で聞き合う時間は、すごく温かい
時間を感じます。私は、皆さんの
発言を聞きながら、第2回イエナ
カフェが、それぞれがそれぞれの
立場で自分にできることを見つ
めた会になったことを実感しまし
た。

リヒテルズさんからは、日本の世
の中が確実に変わろうとしている
こと、そしてその社会の変化は、
今までのように上からの変化で
はなく、人々の意識の変化から
起きつつあることが示唆されまし
た。

ただ、そうした人々の意識の変
化を具現化するには、そのための
システムが必要であり、そのシ
ステムづくりの基となるさまざま
な活動に、私たち一人ひとりが
市民としての自覚を持って参加
していくことが大切なのだ、日
本の未来社会を見据えた力強い
提言がされ、会は終了しました。
本当に充実した会でした。リヒ
テルズさん、ありがとうございました。

若干、会場片付けの時間をオー
バーし、会館のおじさんに「ごめ
んなさい」を言いつつ、心地よ
い疲労感のもと会場をあとにし
ました。

日本イエナプラン教育協会福岡支
部代表

久保 礼子

皆さまのご報告、お待ちしております！！

日本イエナプラン教育では、皆さまの
イエナの活動や各支部での活動を
ニュースレターで紹介致します。講
演会・報告会・ワークショップなど
何か企画を立ち上げられた際
には、以下のアドレスまでぜひご
連絡下さい！

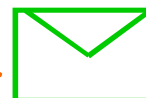
[Mail:info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)





Kさん

Q1: オランダの子どもの中には、「6が合格点だから、6くらいさえ取れていればいいや」という“zesjes-mentaliteit” (6-mentality)もしくは“zesjescultuur” (6culture)という傾向があるそうですね。そういった自分のベストを目指さない傾向の批判として、「モチベーションがあがらないのは、オランダの教育には競争がないせいだ」という声もあるようですが、このことに関して、リヒテルズさんはどのようにお考えでしょうか。“zesjes-mentaliteit”に関してオランダの学校が取り組んでいることをご紹介します。よろしくお願いいたします。



A: リヒテルズ直子より

70年代以降、画一教育をやめて、個別の教育をやろうという政策に変わったことで、オランダの教育は、全体として、確かに、「競争」を排したものになっていきました。しかし、上に書かれている『6点十分カルチュア』が、そのまま、個別教育の欠点、という短絡は、確かにオランダでもよく見られますが、すべきではないと考えます。まず、個別教育が学習への意欲を欠くものであるとは必ずしも言えないからです。

とりわけ、私たちの協会が目指しているイエナプラン教育の在り方は、20の原則をよく読まれればよくわかると思いますが、決して、甘えた怠惰な子どもたちを作ることではなく、学びへの意欲を持つ市民を形成することにあるからです。

この前提の上に立って、なお、申し上げなくてはならないのは、それでも、「個別の発達」に対する安易な理解、学びの過程を、動機づけから始まるものではなく、「お勉強」としてとらえたまま、できない子に手取り足取りしてやろうとか、知識を詰め込むことを勉強だ、と考え続けていると、個別の指導が、大変狭いものとなり、子どもたちは、学びへの意欲を起こさないまま『6点十分カルチュア』に陥る危険があるということです。

実際、オランダでも、大半の学校は、まだ、そういう産業化社会の知識偏重型の学校の伝統から解放されていません。そのために、形の上では個別の指導をしているようでも、学びを喜び、動機づけから始まるものとしてとらえていないために、非常に甘ったるいものになってしまうことがあります。

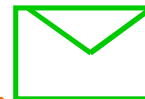
ご質問は、オランダの教育全般に関するものようですが、くれぐれも、オランダの学校教育が、全体として理想的なものであるという誤解はされませんように。制度の上で、イエナプラン教育のような個別の発達を助けるメソッドを取り入れやすくなったものという意味では大変優れていますが、同時に、「6点カルチュア」を生む危険も確かにあるということです。

ただ、このことについては、別の側面から見ることもできると思います。「果たして6点カルチュアは一方向的にネガティブな面だけなのか」ということです。たしか、質問してくださったKさんは、オランダ視察の折に、ジェンダー関係の施設でこの話を私と一緒に聞かれたと思います。その時に、プレゼンしてくれた専門家も言っていたとおもいますが、「6点カルチュアによる、ベストを尽くさないという問題はあるが、同時に、競争していただいただけでは身につかない能力も養われているのではないか」ということです。

一般に、イエナプランのペーターセン、モンテッソーリ、フレネなどは、近代の学校が、産業革命以後の、産業社会のためのマンパワー養成だけを目的にしてきたことに対するアンチテーゼから生まれてきたものです。

※後半につづく

—リヒテルズ直子の 質問箱—



つまり、良い点を取るためにひたすら反復練習をするような勉強が、社会性や情動性の発達を阻害しているのではないか、という提言です。しかも、反復学習をしても良い点を取れない子どもたちは、その子どもが持つ人としての優れたものを引き出されないままにごみ箱に捨てられるように落ちこぼれてきたのです。「6点カルチュア」にもそういう意味で、ポジティブな面があることは心の隅で認めておいて良いのではないのでしょうか。

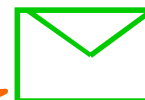
実際には、現在のオランダのイエナプラン協会の人たちは、どの子どもにとっても最大限に能力が発揮できるように、力を引き出し、伸びる機会を与えることであるといっています。つまり、認知的な潜在的な能力が高い子どもには、それが伸びるようにどんどん挑戦課題を与える、また、他の能力がある子どもには、そういう他の能力をポジティブに認められるようにして、学び、大人になることに積極的・意欲的にかかわるようにしてやる、ということです。

考えてみてください。産業化社会の中で、自然や植物や生き物に関心のある子、土と共に働くことに生きがいを感じる子どもが、どれだけ、学校教育を通して、喜びを持って農業に従事するようになったか？ また、手先を使って美しいものを生み出すことが好きな子が、その能力によって、どれだけ素晴らしい年代にもわたって受け継がれてきた伝統工芸や、アートを通じたメッセージを発する人間として育てられてきたことか？
どんなことにもポジティブな面とネガティブな面はあります。そして、人間形成にかかわる人は、両方の面を常に見ていなくてはならないと思います。



Kさん

Q2:リヒテルズさんと尾木先生の対談本『いま「開国」の時 ニッポンの教育』の中で、「(欧州)各国の教育についての詳しい状況やテーマ別研究の蓄積をデータベースとして集めています。」という記述がありますが(p246)、それは閲覧することは可能なのでしょうか。(それらの)サイトのURLを教えてくださいませんか？



A:リヒテルズ直子より

もちろん可能です。教育はすべての人にとっての重要な課題です。また、公教育は、市民の意思によって行われるべきものです。以下のサイトに、各国の言語と、英語(多くの場合フランス語やドイツ語でも)のたくさんの情報があります。また、テーマ別のおびただしい数の報告書も発表されています。

http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/index_en.php

※今回のこちらのコーナーは、イエナプラン教育に限定したものではありませんが、オランダの教育やイエナプラン教育の背景を知る上での疑問・質問等ございましたら、こちらのコーナーにお寄せ下さい。



★リヒテルズ直子さんへの質問募集

イエナプラン教育やオランダについて、リヒテルズさんに直接たずねてみたいことはありませんか？
皆さまへの回答は、ニュースレター～リヒテルズ直子の質問箱～に毎月掲載いたします。
ご質問のある方は、件名に「ニュースレター質問箱」とお書きの上 info@japanjenaplan.org
までお送り下さい。

紙面の都合上、いただいたご質問はこちらでおまとめし、毎月1～2件ずつ掲載しますことをご了承下さい。

皆さまのご質問をお待ちしております。

★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

無事、第8号まで発行することができました。ありがとうございました！

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想をお聞かせください。

info@japanjenaplan.org

心よりお待ちしております。



★各支部のご案内

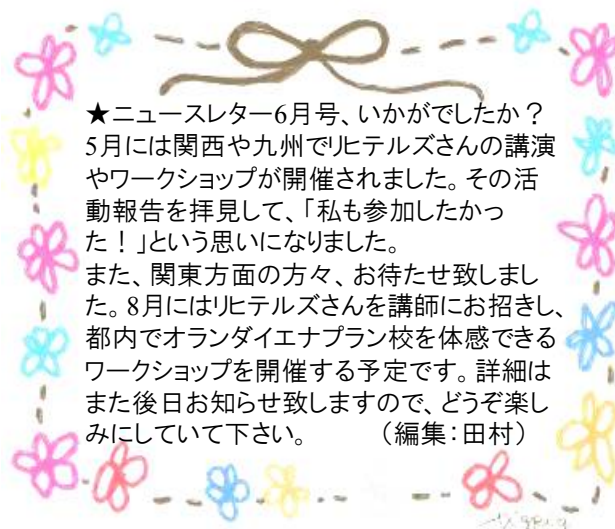
東京支部 info@japanjenaplan.org

千葉支部 chiba@japanjenaplan.org

埼玉支部 saitama@japanjenaplan.org

京都支部 kyoto@japanjenaplan.org

福岡支部 fukuoka@japanjenaplan.org



★ニュースレター6月号、いかがでしたか？
5月には関西や九州でリヒテルズさんの講演やワークショップが開催されました。その活動報告を拝見して、「私も参加したかった！」という思いになりました。
また、関東方面の方々、お待たせ致しました。8月にはリヒテルズさんを講師にお招きし、都内でオランダイエナプラン校を体感できるワークショップを開催する予定です。詳細はまた後日お知らせ致しますので、どうぞ楽しみにしていて下さい。（編集：田村）